

Info
2

子育てのコツを知って親子で楽しく

乳幼児期の関わりのポイントを紹介

子どもの発達には、個人差や生まれ持った特性があり、得手・不得手、興味・関心を持つ対象、成長のペースなどは人それぞれに違います。そのため、子育ての仕方とも皆同じではありません。乳幼児期の子育てに関する代表的な相談について、ワンポイントアドバイスをお伝えします。



問い合わせ 子育て応援課発達支援係(プラザけやき内☎37-1137)

■「ことばの成長がゆっくりかもしれない…」

一般的に子どもは、1歳半頃から、人や物の名前を理解し、「ブーブ」「ワンワン」などの単語を話すようになります。そして2歳頃になると、「マンマ、ちょうだい」などの2語文が出るようになり、2歳半から3歳頃には、言葉でのコミュニケーションをとれるようになります。周囲の人がたくさん声を掛けてあげましょう。

★Point

- ・絵本の読み聞かせがオススメです。子どもの興味や気持ちに合わせた声掛けをしながら、やりとりを楽しめると良いです。
- ・親子のふれあい遊びはとても大切です。子どもは、遊びの中で人とやりとりする力を身につけていきます。



■「かんしゃくがひどく、どう対応したらいいのかな…」

2歳前後から「イヤイヤ期」が始まります。イヤイヤ期は、大人にはわずらわしい時期ですが、子どもの発達にはとても大切な「自立」の始まりの時期です。大人のペースでやらせようとしても、なかなかうまくいきません。子どもの思いを受け止めながら、無理せず過ごしましょう。



★Point

- ・まず子どもの気持ちを受け止めましょう。
- ・子どもの自分でやりたい気持ちに寄り添い、さりげなくサポートしてあげましょう。
- ・3歳頃になり、言葉がわかるようになったら、“子どもにとってうれしいこと”で事前にお約束をしておくのが効果的です。

■「子どもをどのように褒めたらいいのかな…」

子どもを褒めると、「親子の信頼関係が深まる」、「挑戦する気持ちや前向きに取り組む気持ちが持てる」、「認めてもらうことで自己肯定感を育むことができる」などの良い効果がたくさんあります。

★Point

- ・日常生活の中でできたことを褒めてあげると、「大人が自分を見てくれている」と感じられ、安心します。
- ・成功したときだけでなく、頑張った過程を褒めてもらうことで、「もう一度チャレンジしよう」という気持ちにもつながります。
- ・褒め言葉をかけるゆとりがない時や、どう褒めたらいいかわからない場合には、うれしそうに拍手をしたり、頭をなでたりしましょう。それだけでも、子どもにはうれしい事です。
- ・「ありがとう」「助かったよ」「うれしいよ」といった大人の気持ちを伝えましょう。褒められたときと同じように、自己肯定感が高まります。



●気軽に相談ください

市では、乳幼児健診などで、子どもの成長・発達を見守り、保護者から気になることや心配な事を聞きながら、幼児相談や教室の紹介を行っています。教室は、親子あそびの各教室、子育てのコツを伝えるコモンセンス・ペアレンティング講座、ペアレント・プログラム講座などがあります。

自己主張が強くなる時期は、大人もイライラしてしまったり、子どもの発達に不安を感じたりすることもあるかもしれません。そのような時には、一人で抱え込まず、身近な人や市などの窓口(下記)に相談しましょう。

※市ホームページに、発達支援に関する過去の記事を掲載しているので、ぜひ参考にご覧ください。



【市役所の相談窓口】

- 就園前：子育て応援課発達支援係
(プラザけやき内☎37-1137)
- 就園児：こども政策課幼保こども園係
(プラザけやき内☎37-1131)
- 就学児：学校教育課学校指導係
(中央公民館内☎73-1113)

【市役所以外の相談窓口】

- ・東遠地区生活支援センター
(☎35-2971、西方4345-2)
- ・静岡県中西部発達障害者支援センター『COCO』
(☎0547-39-3600、島田市大川町10-1 エフビル3階)

